

学校・地域連携カリキュラムによるキャリア教育活動

岩国市立由宇小学校

1 はじめに

本校は、地域連携教育と小中一貫教育を推進する上で、中学校区の地域協育ネット（結愛ネット）の活用を軸にした学校・地域連携カリキュラムを作成し、地域の教育資源（ひと・もの・こと）を最大限に活用することで児童の知・徳・体のバランスのとれた成長を図っている。特にキャリア教育の推進に当たっては、他者とのつながりや様々な体験の中で、夢や目標をもたせ、達成に向けて努力させ、成果を実感させることを通して成就感や達成感を与え、自信をもたせていくようにカリキュラム・マネジメントをしている。

そこでつながる他者に関しては、地域で活躍する人材や児童に本物の素晴らしさを体感させてくれる人材を選び、児童に感動体験を与えてもらってきた。

今年度も12月に広島東洋カープの選手2名（斉藤優汰選手、辻大雅選手）による講話と全校児童との交流会、2月に異業種の職業人による職業講話を実施した。

2 広島東洋カープの選手による講話

毎年恒例となっている広島東洋カープの選手との交流は、今年度も2名の選手の来校があり、あこがれのプロ野球選手は、子どもたちに夢と感動を与えた。全校での選手歓迎会の実施について、高学年の児童から実行委員を募り、来校が決定してからの短い時間の中で、子ども達の精一杯の思いを実現する取組を子ども達の手でスタートさせた。ある児童はインターネットで選手紹介のための資料を探してまとめ、別の児童はパワーポイントでスライドを作成した。また、各学級に応援メッセージを依頼しに行き、心のこもったプレゼントを作成した。全校児童に選手への質問を募った児童は、代表としてインタビューにも挑戦した。子ども達が意見を出し合い、行動に移し、一人ひとりが当日役割を担い、短い準備期間ではあったが、最後に「やり遂げた。」「選手が喜んでくれた。」「自分たちの思いを実現できた」と思える結果につながった。



広島東洋カープの選手から学んだ夢への向き合い方、挑戦するとの大切さの他に、実行委員になった高学年の児童16名にとっても自己肯定感や達成感、奉仕の精神など、多くのことを学ぶことができた。そして、全校児童へ高学年の姿として大きな影響を与える機会となった。最後に広島東洋カープの選手2名と実行委員の児童との記念写真は、素晴らしい1枚となった。

3 異業種の職業人による職業講話

キャリア教育の一環として、様々な職業で活躍しているプロフェッショナルの方々から直接話を聞く職業講話を実施した。これは、自分の将来に向けて夢や目標をもつとともに自分を育て支えてくれるふるさと由宇を愛する心を育むことをねらいとしている。

今年度の講師は、由宇町内で活躍されている7つの事業所9名に本校教職員2名も加えた11名である。5・6年生児童を対象とし、仕事内容だけでなく今特に頑張っていることや苦労したこととその克服方法、そして、講師の方々が考える「プロフェッショナルとは」という仕事に対する考え方をご講話いただいた。



〈児童の感想〉

- ・どの仕事も、人を思う気持ちがなければ成り立たないということがわかった。
- ・いつも市民のために全力を尽くして仕事をされていることがわかった。
- ・自分が好きなことは何なのか考え、将来したいことを決めていきたい。
- ・嫌なことや苦手なことがあってもあきらめずに挑戦していきたい。
- ・人とコミュニケーションをとりながら、指示がなくても考えて行動していきたい。
- ・与えられた仕事以上のことを返せる大人になりたい。
- ・人の役に立つことは、やりがいがあって楽しいことだと感じた。
- ・未来の姿を想像して、今できることに取り組みたい。
- ・人とのつながりを大切にして生活していきたい。
- ・自分のしたいことを見つけて、本気でやってみたい。
- ・現状認識をして、次に対策・方法を考え、行動・実行に生かしていきたい。
- ・自分だけの力ではなく、家族や友達、誰かの言葉などが支えてくれていることを忘れずに感謝して生きていきたい。

4 終わりに

憧れの存在である広島東洋カープの選手や由宇町の身近なプロフェッショナルの方々の生の声は、自己の生活を振り返るとともに将来の夢に対する具体的な希望や目標をもつよい機会となった。今後も、計画的にキャリア教育を推進していきたい。このような活動ができたのも山口県教育会の助成があったからである。感謝している。